

働くあなたに

今からはじめる 子宮頸がん予防

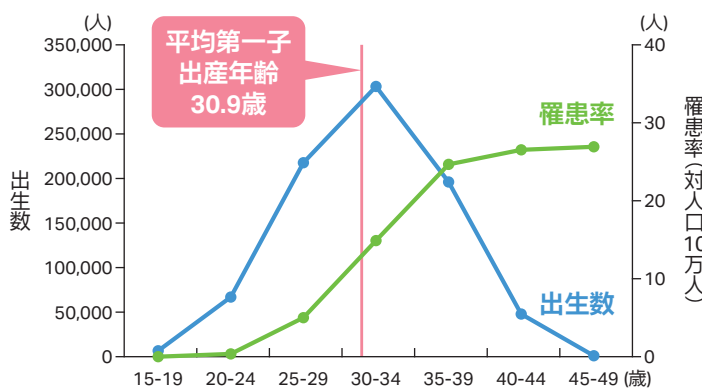
✓ 子宮頸がんは、女性が罹患するがんの中で、 20～30代で1位、40代では2位のがんです*

*上皮内がんを含む

- 20～40代で発症が多い子宮頸がん。仕事や出産の時期と重なるため、早めの予防が大切です。
- 日本では、毎年約**1万人**が子宮頸がんと診断され¹⁾、約**2,700人**が亡くなっています²⁾。

各年代の女性が罹患 がんにおける子宮頸がんの順位 (2021年データ) *1)	
年代	順位
20代	1位
30代	1位
40代	2位

日本人女性の出生数と子宮頸がんの罹患率 (2021年) ^{1), 3), 4)}

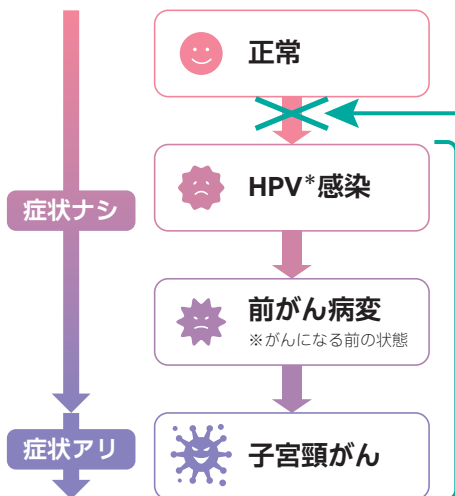


*上皮内がんを含む集計があるがん種は、その罹患数に基づく。なおかつ、部位別の集計があるがん種はその罹患数に基づく。

1) 国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」(全国がん登録) 全国がん罹患データ (2016年～2021年) より出典、作表、作図 https://ganjoho.jp/reg_stat/statistics/data/dl/index.html (Accessed Jan. 7, 2026)
 2) 国立がん研究センターがん情報サービス「がん登録-統計」(人口動態統計) 全国がん死亡データ (1958年～2024年) https://ganjoho.jp/reg_stat/statistics/data/dl/index.html (Accessed Jan. 7, 2026)
 3) 厚生労働省 令和3年(2021)人口動態統計(確定数)の概況 母の年齢(5歳階級)・出生順位別にみた出生数より作図 <https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/kakutei21/index.html> (Accessed Jan. 7, 2026)
 4) 厚生労働省 令和3年(2021)人口動態統計月報年計(概数)の概況 結果の概要より作図 <https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/geppo/nengai21/index.html> (Accessed Jan. 7, 2026)

✓ 子宮頸がん予防は「ワクチン+検診」が重要です

• 子宮頸がんの予防には、2つ段階があります。



① 1次予防 子宮頸がんの原因となる HPV感染そのものをブロックし*、がんにならないようにする**HPVワクチン**
 *ワクチンは感染を100%防ぐわけではありません

② 2次予防 早期の感染やがんを発見し、予防する**検診**

※子宮頸がんはワクチンと検診で100%予防できるわけではありません

日本産科婦人科学会 子宮頸がん予防についての正しい理解のために「Part 1 子宮頸がんとHPVワクチンに関する最新の知識」
https://www.jsog.or.jp/wp-content/uploads/files/jsogpolicy/HPV_Part1_4.pdf (Accessed Jan. 7, 2026) より引用

*ヒトパピローマウイルス

詳しくは医師にご相談ください。

子宮頸がん予防に関する
詳しい情報はこちら



子宮頸がん

Q & A



Q1 子宮頸がんになりやすい人と特徴は？

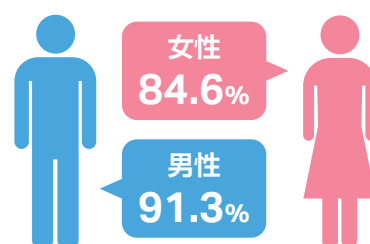
A 子宮頸がんは、主にHPV (ヒトパピローマウイルス) への感染が原因で起こります。そのため、一度でも性交渉の経験がある女性であれば、誰でも発症する可能性があります。

また、性交渉の機会が多いほどHPVに感染する機会は増えます¹⁾が、経験が少なくても感染しないとは限りません。

1) Cohen PA et al. Lancet 2019; 393: 169-182.

Q2 主に性交渉で感染するという事は、男性もHPVに感染しますか？

A HPVは男女問わず感染します。女性特有の器官 (子宮頸部や膣、外陰部) だけでなく、口腔内や肛門にも感染するため、肛門がんや尖圭コンジローマ (性器や肛門のまわりにできるイボの病気) の原因にもなります。また、性交渉の経験がある方で、生涯でHPVに感染する割合は女性は84.6%ですが、男性は91.3%の方が感染する¹⁾という、海外のデータもあります。



1) Chesson HW et al. Sex Transm Dis. 2014; 41: 660-664.

Q3 私は30代です。もう定期接種の年齢には当てはまらないけど、HPVワクチンを接種できる年齢なの？

A 日本では、小学校6年生～高校1年生相当 (その年度で12歳～16歳になる女の子) が、HPVワクチンの定期接種の対象となっており、原則自己負担はありません。一方で、定期接種の年齢を過ぎていても、HPVワクチンの接種を希望する場合は、自費での接種が可能です。また、加入されている健康保険組合によっては、接種費用の補助が受けられる場合があります。自費での接種を希望される場合は、ご自身の健康保険組合やお近くの医療機関にご相談ください。

Q4 性交渉経験がなければ、子宮頸がん検診は必要ない？

A 性交渉の経験がない方は、HPVに感染する可能性が低く、その結果として子宮頸がんになる可能性もかなり低いと考えられています。そのため、現時点では、必ずしも子宮頸がん検診を受ける必要性は高くないとされています¹⁾。しかし、子宮頸がん以外にも、子宮や卵巣にかかわる病気もあるので、他の病気を発見するためにも婦人科検診は受けることが大切です。

1) がん情報サービス 子宮頸がん検診について
https://ganjoho.jp/public/pre_scr/screening/cervix_uteri.html (Accessed Jan. 7, 2026)

子宮頸がん予防に関する
詳しい情報はこちら

<https://www.shikyukeigan-yobo.jp/>

